



田口 廣之
議員
(無所属)

問

近年、畜産農家の経営環境は飼料代の高騰、販売物の価格の低迷、労働力不足等厳しさを増すばかりである。

今般加工原料乳価が、ホクレンとメーカーの交渉の結果2円30銭上がり、少し明るい兆しが見えたかなと思われることもあるが、本当に厳しい現状である。

この厳しい局面を乗り切るため、町営牧場は大変重要な役割を担っていると思われる。

現状と今後の利用見通し、計画等について伺う。

①今年を含めた入牧頭数の推移について。

②事故、病気の発生状況と、その対応策の解決に向けた取り組み状況について。

③利用の周知の方法と意見の反映状況について。

④草地更新を含めた施肥管理、各牧場の植生状況は。

⑤各牧場の利用率は。

問

町営牧場の役割は

答

畜産振興の基盤の確立を図り農業経営の安定に役立ていきたい

⑥休止している牧場を含めた採草可能な面積は。

⑦通年預託を考えるとどうか。

町長 ②事故病気の取り組みとしては、入牧牛すべてにワクチン接種の義務付け、イヤータグの装着、駆虫薬の2回塗布を実施している。

また、意見の反映状況は、識見者や関係機関で構成する「町営牧場運営委員会」を年2回開催する中で、入牧状況、運営計画及び実績等を報告し、意見を伺っている。

事故病気発生状況

牛の発生件数	
趾間腐乱	71件
ピンクアイ	27件
流産	9件
外傷	6件
計	142件

馬の発生件数	
ひづめの病気	1頭
心不全の突然死	1頭
腰部挫創で廃用	1頭

①入牧頭数の推移 H24.5末現在

年度	南勢牧場	忠類地区
20	471頭	1052頭
21	412頭	1116頭
22	596頭	1304頭
23	465頭	1144頭
24	285頭	771頭

※忠類地区は、H20年は共栄牧場、晩成牧場、中当第2牧場の3牧場。H21年以降は、共栄牧場、晩成牧場の2牧場の合計数。

また、幕別町営牧場管理マニュアルに基づく牧場従業員の研修を実施、毎朝健康状態の確認をし異常牛馬の早期発見に努めている。

③周知の方法は、3月広報誌で「乳・肉用牛の入牧希望」の案内を掲載し、過去2年間に預託実績のある預託者に入牧案内を個別に郵送している。

また、意見の反映状況は、識見者や関係機関で構成する「町営牧場運営委員会」を年2回開催する中で、入牧状況、運営計画及び実績等を報告し、意見を伺っている。

④草地更新は、南勢牧場が平成11年度、共栄牧場は平成16年度に実施しているが、晩成牧場は昭和61年度に更新以降、草地が古くなっているため、平成25年度から2か年で全面更新を計画している。

施肥管理は、各牧場の土壌診断を行ったうえで必要な要素量を定め、JA幕別町に委託し、適期に散布をしている。



晩成牧場の入牧

⑤各牧場の利用率 H24.5末現在

年度	南勢牧場	忠類地区
20	72.5%	61.2%
21	63.4%	88.0%
22	91.7%	88.5%
23	71.5%	84.9%
24	43.8%	60.8%

※南勢牧場の1日の容認頭数は650頭以内、忠類地区のH20年の容認頭数は950頭以内、H21年度以降は800頭で計算。

⑥南勢牧場、4牧区11・6ha、休止している中当第1牧場の採草可能な35ha、合計46・6haである。

⑦町営牧場は、「夏季放牧方式」施設として管理運営をしているため、通年預託の場合には牛舎整備のほか、冬季間の飼料確保、作業員人件費の増大など、多大なコスト増が見込まれることから、通年預託は難しいものと考えている。